

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
いきいき久間っ子の育成	<p>本年度は、「思いやりの心もち、自分で考え、進んで表現し、活動する子どもを育てるために、すべての子どもが『参加する』『できる』『わかる』教育活動に取り組む」に重点をおいて全職員で実践し、学校の課題である学力向上・心の教育・特別支援教育の問題を解決するために、校内研究を中心において継続・徹底した指導を行い「いきいき久間っ子の育成」をめざしていく</p> <p>①<学力の向上>…工夫して学ぶ子プロジェクト ○授業に交流タイムを設定し、書く力話す力などの表現力及び読む力を伸ばす ○ICT利活用による授業実践を積み上げる</p> <p>②<健康な体づくり>…強くて逞しい子プロジェクト ○日常的な遊びや運動の習慣を身につけて体力の向上を図る ○朝食を摂る習慣を身につける。 ○目標の時刻までに布団に入る習慣を身につける</p> <p>③<道徳教育の推進><特別支援教育の推進>…心やさしい子プロジェクト ○心に響く授業づくりを通して道徳心の向上を図る ○支援体制の充実 ○学習環境のユニバーサル・デザイン化に取り組む</p> <p>④<地域連携の促進> ○地域の人材・教材を生かした実践の充実を図る(「嬉野学」地域教材・地域人材活用)</p>

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む



3 目標・評価

① 「工夫して学ぶ子」育成に向け、自分で考え創り出す活動の実践						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	最終結果	(・) そうなった訳 (◎) 今後の取組や改善策
教育活動	●学力向上	読書活動の充実	・年間「100冊読書」達成する児童を80%以上にする。 ・年間「50冊読書」達成する児童を100%にする。	・朝の時間に読書タイムを行い、静かな授業の始まりを迎える。 ・週末読書や読書回覧板(低学年)に取り組み、家庭での読書の習慣化を図る。 ・図書館祭りや読み聞かせを実施する。	A	・「100冊読書」達成児童が82%となり目標達成できた。また、「年間50冊読書」の達成者は96%になり、充実した読書活動ができていた。 ◎学校での朝読書は、意義を理解させ定刻通りに読書できるように徹底した指導で習慣化を図っていく。
		家庭学習習慣の確立	・家庭学習に取り組む方法が分かり、自ら家庭学習に取り組めると自信を持って回答する児童を90%以上にする。	・家庭学習チェックシートに取り組むことで、家庭学習指導の徹底、学習準備の徹底や学習習慣の確立を図る。 ・家庭学習の手引きを配布し、学年に応じた学習時間や内容の充実を図る。 ・家庭学習(自学)ノートコンテストを実施し、更なる内容の充実を図る。	A	家庭学習に取り組んでいると回答した児童が96%になり、進んで取り組む習慣が身につけてきた。・自学展示コーナーにある自学ノートに関心を持ち、意欲的に自学に取り組む児童が増えた。 ◎自学展示コーナーは引き続き設置し、自学の推進を図っていく。
		獲得した知識・技能を活用し、表現する力の育成	・自分の考えをノートに書いたり、「交流タイム」で発表し合ったりすることができると回答する児童を80%以上にする。	・授業の中に自分の考えをまとめる時間や伝え合う時間を確保し、表現することの大切さを実感させながら表現力の育成を図る。 ・研究授業等を設定して、児童の表現力を育成する指導力の向上を図る。	B	・自分で考えたり発表したりしていると回答した児童は72%で、目標の80%が達成できなかった。 ◎道徳の授業では、どんな発表も認められ大切にされるので児童の自信になっている。他教科の学習でも発表できるように「交流タイム」の充実と工夫をしていく。
	●ICT利活用教育の推進	ICT利活用教育の推進	・教職員のICT利活用教育に関する基本的なスキルの向上を図る。 ・電子黒板やICT機器を活用した授業を積極的に進める職員を95%以上にする。	・電子黒板やICT機器等について、校内研修会を計画的に行うだけでなく、支援員を活用してミニ研修会を随時設定する。 ・ICTを利活用した実践の情報交換を行う。	A	・ICT機器を利活用した実践を行っている教職員100%になり、目標を達成できた。 ◎ICT支援員を活用して、ICT利活用の研修会を開催し実践に生かしていく。
	○子どもの活動づくり	学級活動の充実	・係活動や当番(日直・掃除・給食)活動で「責任を持って自分の役割を果たしている」と回答する児童を90%以上にする。	・学級において、仕事を担う意義を理解させ、計画・実践・ふり返りの時間を保障し、活動の支援や助言を行う。 ・係活動で、当番の活動と自主的活動を意識させて取り組ませる。	A	・係活動や当番活動で、「責任をもって自分の役割を果たしている」と回答した児童は97%になり目標を達成できた。 ・道徳で「勤労」や「責任」などを学習したことが日常生活の中で生かされてきている。

② 「強くて逞しい子」育成に向け、進んで運動に親しむ活動の実践						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	最終結果	(・) そうなった訳 (◎) 今後の取組や改善策
教育活動	●健康・体づくり	望ましい生活習慣の形成	<ul style="list-style-type: none"> 毎日、朝食をとって登校する児童95%を目指す。 目標の就寝時刻に布団に入る児童を90%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎月、保健だより・食育だよりを発行し病気の予防法や食事の大切さを保護者に伝える。 朝食をバランスよく食べることや睡眠の大切さを保護者や児童に伝える。 毎朝の健康観察時に児童の就寝時刻と朝食喫食について調べる。 年に3回生活習慣チェックシートを配布し、生活習慣を見直す機会を設ける。 <就寝時間(布団に入る)の目安: 低(9:00) 中(9:30) 高(10:00)>	B	<ul style="list-style-type: none"> 朝食喫食率は、4、3の割合が95.2%であり、ほとんど朝食を摂ることができている。 就寝時間に関しては、高学年につれて守られなくなっている。 また、低学年のうちから守れていない児童が見受けられている。 ◎朝食喫食、就寝時間について引き続き指導を行う。保護者にもお便りなどで状況を伝えていく。また、授業参観で生活習慣についての内容を扱い、保護者への啓発を合わせて行うことも考えられる。
		運動習慣の定着化	<ul style="list-style-type: none"> 昼休みに外に出てよく遊ぶ児童を90%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな運動を紹介し、児童に奨励する。(縦割共遊、がんばるマラソン、久間リンピックチャレンジランド) 外遊びを奨励する。(前期は学級で、後期は全校の取り組みを行うようにさせる。) 天気のよい日は外で遊ぶように放送で呼びかける。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 昼休みの外遊びについての4、3の割合が87.1%だったが、目標の90%には達していなかった。久間リンピック・がんばるマラソンなどの企画は効果があった。 ◎晴れた日には、放送で呼びかける。体育委員会で全校遊びを企画する。
	○子どもの活動づくり	縦割り活動・クラブ活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 縦割り活動で「他の学年の人と楽しく活動できた」と回答する児童を90%以上にする。 クラブ活動で「他の学年の人と協力して活動できた」と回答する児童を90%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 異学年で共通の興味・関心を追求させながら、活動計画や準備を事前に知らせたり、活動中の進行等をしったりする自主的な活動の場を保障する。 異学年で交流する楽しさを味わえる、場と時間を保障する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 縦割遊び、クラブ活動を楽しみにしている児童がほとんど(98.3%)だった。 ◎縦割遊びやふれあい弁当など活動の充実を図る。

③ 「心やさしい子」育成に向け、人の気持ちを考える活動の実践

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	最終結果	(・)そうだった訳 (◎)今後の取組や改善策
教育活動	●心の教育	道徳教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・年間計画と別葉に沿って、道徳の時間および道徳教育の充実を図る。 ・年1回以上、道徳の授業を公開する。(6月の授業参観「ふれあい道徳」) 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳の授業研究会を全学級で実施する。 ・道徳の教科書を活用する。 ・「心やさしい子」プロジェクト部会からふれあい道徳を提案する。 ・ふれあい道徳の実施にあたっては、地域人材の積極的活用や「学校便り」、「学級通信」等を通じた情報発信に努め、広く道徳教育への理解を図る。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の94.9%が「あてはまる」と答えており、年間計画に基づいた研修を行ったからである。 ・道徳ノートを作成し、保護者との連携を図ったので、道徳教育への理解が得られた。 ・道徳の時間を確実に実践してきたので、心優しい児童の心が育ちつつある。 ◎来年度も道徳教育の充実を図り、計画的・実践的に心の成長を目指していきたい。
		生徒指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・人の気持ちを考えることができる児童を、90%以上にする。 ・自分からあいさつができる児童を90%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分のことは自分でできる子になろう」「人の気持ちが考えられる子になろう」という2大目標を掲げ、それに添って月ごとに具体的なめあてを設定し、プロジェクト部会を中心に達成状況を評価する。 ・学年ごとに毎月のめあてを教室に掲示し、意識付けを図るとともに、日々の指導に生かす。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・児童や保護者の評価では、90%を超えているが、実際の児童の様子を見てみると、人の気持ちを考えない言動が見られる。あいさつに関しても同じように、気持ちのよさまではいかない。 ◎あいさつに関しては、もっと意識をさせてあいさつを広げる取り組みをしていく。 ◎児童自身が考えて行動できるような指導を行っていく。 ◎家庭との連携を更に強めていく。
		特別支援教育及び教育相談体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育について理解し、取り組んでいる職員を90%以上にする。 ・気にかけておきたい子の実態、支援の在り方について共通理解を図り、実践している職員を90%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育に関する研修会を実施し、特別支援教育コーディネーターを中心とした支援体制を確立する。 ・毎月の「子ども支援会議」で支援の必要な児童の実態についてスクールカウンセラー、巡回相談員、教育相談員などを活用しながら情報交換し、支援の方法を検討する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援コーディネーターを中心に、計画的な支援体制ができている。 ・毎月、子ども支援会議を行ったことで、児童理解や児童への支援の仕方などを共通理解できた。 ◎特別支援コーディネーターを中心に、スクールカウンセラーや相談員、特別支援学校の巡回相談などを活用しながら、児童の支援と保護者との連携を図っていく。
	●いじめ問題への対応	いじめのない学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめはどの学校にも必ず起こるものであるという認識の下、人権教室、児童アンケート等を行うことにより、いじめを許さない意識付けを図り、早期発見・早期対応をする。 ・ハイパーQUテストを活用した学級づくりを行い、満足型の学級をめざす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめに関する児童のアンケートを年2回実施する。(7・12月) ・児童のアンケートを基に児童との面談を実施し、いじめの早期発見、よりよい解決に努める。 ・「仲間・連帯」「やさしさ・思いやり」をテーマとした学年グループでの人権集会(6月)や、いじめをテーマにした人権集会(11月)を実施し、児童の心を耕していじめを許さない心を育む。 ・ハイパーQUの効果的な活用を図るために研修会を実施し、テストの結果をもとに児童の実態把握を行うことで支持的風土のある学級づくりに生かす。さらに2回目を実施することで指導の在り方を振り返り、その後の学級づくりに生かす。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・QUテストの結果を生かした学級経営や道徳の時間の実施、及び、特別活動、いじめに関する授業などを行った結果、1月のアンケートでは、「学校が楽しい」と答えた児童が94.9%、保護者97.2%と高い結果を得ることができた。 ◎「じめは決してしてはいけないこと」や「善悪の判断」を理解し、実行できるように、具体的な指導をしていく。 ◎「仲間づくり」や「優しさ・思いやり」をテーマとした人権集会や学級活動を学級経営に生かしながら、楽しい学校生活を送れるようにしていきたい。

④保護者・地域との連携を深めるコミュニティー活用の推進						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	最終結果	(・) そうなった訳 (◎) 今後の取組や改善策
学校運営	○保護者・地域との連携	家庭・地域コミュニティーとの連携による学習支援体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> 保護者の授業参観率を85%以上にする。 家庭や地域コミュニティーとの連携を図った授業や活動を計画的に実施し、地域の教育力を生かした学習支援体制を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校だよりやHP等で早めに授業参観日や懇談日、学習内容を知らせ、保護者が計画的に参加しやすいようにする。 各教科や総合的な学習の時間における年間計画を作成するとともに、連携活動に係る事前打合せにおいて、活動のねらいや内容についても共通理解を図る。 地域コミュニティーに加え、家庭にも積極的に呼びかけて、支援体制の充実を図る。 児童や保護者に対して、地域行事や地域ボランティア活動等への積極的な参加を働きかける。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 保護者の授業参観率は行事等の参加も含めると85%以上になり、特に久間っ子集会は関心が高く家族・地域の方の参加も多かった。 「コミュニティーや地域の教育力を活用した実践を計画的に行っている」と回答した職員は「だいたいあてはまる」を含めると100%になり、「よくあてはまる」も前回より増え50%になった。 学校だよりやPTA新聞などでもコミュニティーと連携した活動写真を掲載しているので、連携活動への理解が深まった。 ◎今後も年間計画表をもとに、連携活動を計画的に実施していく。
本年度の重点目標に含まれない共通評価項目						
教育活動	○小中連携教育	小中連携教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 9年間を見通した基本的な生活習慣、及び、学習習慣の確立を推進する。 「ろくさんプラン」の分科会ごとに、スリーステップで取り組む内容を把握し、実践していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 小中学校の生徒指導方針の情報交換を行い、本校の生徒指導にかかしてい く。 発達段階をふまえた小中一貫した授業規律を共通理解し、実践していく。 参観できる授業や出前授業等について相互に情報交換し、授業交流を行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 小中連携(ろくさんプラン)を意識して教区活動をしていると回答した職員はだいたいあてはまるを含めると90%になるが、積極的に実践していると回答した職員は20%で前回のアンケートより16%減少した。 1月18日には、市の「学力向上に関する小中連携授業参観」で公開授業を行い、多くの中学校教員にアピールすることができた。 ◎校内研の研究授業の情報交換がうまくできていなかったため、情報交換を密にしていく。また、出前授業などは早めに依頼するようにする。
	○学習環境の改善充実	学習環境のユニバーサルデザイン化	<ul style="list-style-type: none"> 場や時間の構造化、情報(刺激)の調整等をすべての教室で取り組み、すべての子どもが安心して学べる学習環境を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> 年度当初に、具体的な取組を確認し、全職員で取り組む。(前面掲示:学級目標と生活目標、電子黒板のブラックアウト、棚のカーテン化) 給食当番表様式の統一化を行う。 スケジュールボード、タイマーを活用し、学習や生活の見通しを持たせる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 本項目については、全職員が常に意識をしながら取り組んできた。 物の置き場所を整理し、何をどのように置くのか自分で考えて動けるようにするための「場の構造化」、生活の見通しを持たせるための「時間の構造化」、掲示物を最小限にし、注意を集中させる「情報(刺激)の調整」、ルールをシンプルで誰もが実行できるものにする「ルールの明確化」など。その成果が現れ、子どもたちはたいへん落ち着いた生活を送ることができた。 ◎次年度も継続して行い、すべての子どもが安心・安全に学習できるような学習環境作りに取り組んでいく。
	●小学校低学年の学習環境の改善充実	学習習慣や生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> 話を最後まで静かに聞くことができる児童を90%以上にする。 学用品の忘れ物がない児童を90%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 日々の授業で話を聞く態度について、随時指導をする。 自分のことが相手に伝えられるように話し方の指導をする。 「べんきょうのやくそく」を配布し、家庭学習の習慣化を図る。 「家庭学習チェックシート」を実施し、家庭と連携を図りながら学習習慣や生活習慣を確立させる。 学用品の忘れ物については、個別に指導し、家庭との連携を図る。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 「先生の話をよく聞き、授業を受けている」と意識している児童は、1、2年ともにアンケート結果から96%と高いが、実態と児童の意識にはややズレがあり、充分であるとは言えない。 忘れ物については90%前後であり、特定の児童や家庭への支援が必要である。 ◎意識は高まってきているので、今後も指導を継続していく。

●は共通評価項目、○は独自評価項目

<p>4 総合評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 昨年度に引き続き、3つのプロジェクトでそれぞれ学校経営方針に従って具体的目標の設定や中間及び最終評価を行ったことで、全職員の学校運営への参画意識がより高まり、充実してきた。特に「学力向上」の中の「読書活動の充実」は、今年度目標を2段階で設定したことで、児童に対して弾力的な指導を行うことができ、昨年度よりも高い評価を得ることができた。また、校内研修の「道徳」は研究3年目を迎え、新学習指導要領に即した「考え、議論する」授業づくりに全職員で取り組んだ結果、児童の心も安定し、目立った問題行動もなく、全体的に落ち着いた学校生活を送ることができるようになった。 「特別支援教育及び教育相談体制の充実」については、外部機関との連携が十分に図られ、特にうれしの特別支援学校からの巡回相談を頻繁に依頼・実施したことにより、早め早めの対応ができ、効果的な支援を行うことができた。また、年間13回のスクールカウンセラーの来校や、週1日の教育相談員の来校時にも、情報交換を密に行い、個々の児童や保護者の実態に応じた対応をすることができた。 久間地区地域コミュニティーとの連携活動(久間コミ活動)については、学校と地域コミュニティーの間で目的や内容を共有し、事前準備から当日の運営までスムーズに行うことができた。また、昨年度からの課題でもあった家庭や地域を巻き込んだ活動についても、本年度から新たに「親子しめ縄づくり」に取り組んだことはたいへん意義深いものであった。またコミュニティスクールとしての機能も充実しつつあり、「地域とともにある学校」という職員の意識も高まってきた。 最終評価がBである項目の中で、特に「望ましい生活習慣の形成」については、日頃から保護者に対する情報提供や啓発が必要であると考え、学校、学級便りや保護者会等で積極的に保護者に働きかけ、学校と家庭が共通意識をもって、共に育てていくという意識が臨んでいく必要があると思われる。 <p>5 学校関係者評価(2月19日:第3回学校運営協議会より)</p> <ul style="list-style-type: none"> 先日の学校便りで「理科の成績が向上した」という情報を得たが、「サイエンスショー」などの取組により、児童の興味関心が高まったことによるものではないかと高く評価したい。 「租税教室」や「行政相談員による出前授業」など、外部の専門家による指導はとても効果が大きいため、今後も積極的な活用をされたい。 昨年度の反省に立って、達成感の味わえるような目標の設定はとてもよかった。また、道徳の授業の中で、「誰もが何でも言い合える雰囲気づくり」はとても良く、「道徳ノート」で保護者との連携を図っているという点も良い。 あいさつは全体的に明るくて元気が良いが、一部高学年でしない児童もいる。また、朝の登校の様子を見ても、一部の班で改善が必要と思われるところもある。さらに、一部の児童の言葉遣いも気になるところがあり、今後の指導が必要だと考える。 ここ数年ごとの結果を見ると、なかなかBからAになっていない項目もあるので、目標の中身や目標の数値を考えていく必要はないだろうか。 <p>6 来年度の改善策</p> <ul style="list-style-type: none"> 特色ある学校づくりをはじめとして「チーム久間小学校」及び「コミュニティスクール」を推進していくために、学校目標に準じた項目の精選や目標設定を全職員で引き続き行っていきたい。また、よりの確かな評価を行うために、達成基準やアンケート項目の見直しを行うとともに、保護者アンケートをする際に学校のグランドデザインを同封する等、保護者や地域に対して学校運営に関する理解と周知も図っていききたい。 地域連携による教育活動は、無理のない運用に加え、家庭、保護者を巻き込んだ教育活動を展開し、児童の豊かな学び、安心できる教育環境づくりを進めていきたい。そのためにも教育課程との整合性を吟味すると共に、PTA行事等とのタイアップを図るよう工夫したい。また、児童の学びを家庭や地域で生かす教育活動を模索し、学校が拠点となって家庭や地域で育てる環境づくりを進めていきたい。
